

(第3種郵便物認可)

栗原の田園地帯を走るくりでん



宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館 館長

ひらかわ あらた
平川 新

未来への航路

アーティストの房総

も抱いました。

も担いました。
しかし、戦後のモー^{タリゼーション}の進展

日本の近代化は、鉄道敷設などのインフラ整備によって促進されました。この石巻もI R仙石線や石巻線・女川線が整備されました。が、その歴史には地元民による私鉄の開業がありました。それを紹介する前に、歴史遺産として残された「くりはら田園鉄道」のことを書いておきます。

によって徐々に乗客が減少し、1988年（昭和63年）には細倉鉱山が閉山となつて主力の貨物輸送も途絶えました。1993年（平成5年）に、沿線自治体が運営する第三セクターとなっています。

1965年（昭和40年）には183万人の乗客がありましたが、2003年（平成15年）には21万人にまで激減しましたが、

し、翌年に廃線が決定してしまいました。

A photograph showing three men in dark suits and ties standing behind a wooden counter or podium. They are holding red ribbons and ceremonial swords (tachi). The man in the center is leaning forward, performing the cutting action. Behind them, a large white banner with red Japanese characters "会出発式" (Kai Shūhatsu Sei) is visible. To the right, there's a window looking into another room where several people are standing.

⑨くりでんの歴史を残す

です。前身の栗原軌道は1921年(大正10年)に開業し、最終的には総延長25キロになりました。沿線住民の足となつただけではなく、細倉鉱山から採掘された鉱物の貨物輸送

てしまふ」とでした。
そこでNPO法人宮城

そこでNPO法人宮城
てしまふ」ことでした。

にしました。2005年に以降、若柳（栗原市）にあるぐりでん本社に何度も通って、書棚や倉庫から書類を運び出し、写真撮影をして一箇所に保存用封筒に入れる整理をしたのです。資料目録を作成したところ、全体で1万7千点ほりました。

2008年（平成20年）に設置された、くら田園鉄道資産活用検討委員会（委員長

活用委員会

くいさん道産の 活用委員会 告や車両、鉄道器材を 創業から現社まで86年間の経営資料は、日本資本主義の発展を支えながらも、戦後の社会変動に対応できず衰えました。それらを保存し展示する施設の必要性も示され、ミュージアムと鉄道公園のあり方も検討されました。

活用委員会

とが判明するべく、栗市はくりでん資料の発存と併せて、駅舎や、両も歴史遺産として、用する委員会を立ち、



東北大学災害科学国際研究所の所長などを経て、平成26・31年度まで宮城学院女子大学学長を務めた。専門は日本近世史・歴史資料保全学。令和4年4月に、3代目のサン・ファン館館長に就任した。



くりでん動態保存乗車会のテープカット（旧若柳駅、2010年）